

結婚式の  
しおり

北海道神宮



結婚式とは、

神様のお導きにより、生まれも育ちも違う、  
お二人がご縁を結ばれ、手に手を取り合って  
苦楽を共にしながら幸せな家庭を築いていく出発点です。



## 北海道神宮で夫婦のご縁を 結ばれる皆様へ

北海道開拓の守護神をお祀りする北海道神宮では、  
神前結婚式を、ご奉仕申し上げております。

結婚式は、人生儀礼の上で厳粛であり、夫婦が一体と  
なつて苦楽を共にし、世の荒波をしのいで行く覚悟を固  
められ、そして、神前で誓いをかわし、神様の恩恵とご加  
護を新しい生活の上に仰ごうとする儀式です。

私たち日本人は、『妹背の縁を結ぶ』と申し上げて、古  
くから『結び』を大切にしてきました。

婚姻を結ぶことはお二人が夫婦として結ばれるだけ  
ではなく、両家のご家族が結ばれることでもあります。  
そして、子々孫々にいたるまで連綿と栄え続ける歴史の  
始まりとなるのです。

北海道神宮でご縁を結ばれ、幾久しく、幸せなご家庭  
を築かれますことを、心よりお祈り申し上げます。

## 結婚式の由来

神前結婚式の起源は、伊弉諾(いざなぎ)・伊弉冉(い  
ざなみ)二柱の神様が「天の御柱」を廻つて夫婦の契り  
をかかわされて、日本の国土と八百萬の神々をお産みに  
なられ、修理固成の神業をお示しになつた神代の昔に  
溯ります。

神代以来、様々に形を変えて夫婦の契りを結び固め  
結婚の儀が行われてきました。

現在のような「神前結婚式」が行われるようになった  
のは、明治三十三年の嘉仁親王(後の大正天皇)と公爵  
九条道孝の第四女節子姫(後の貞明皇后)が宮中の賢  
所でご成婚の儀式をされ、それが全国に報道され、これ  
に、人々があやかりだしてからのことです。

形式は時代と共に変わつても結婚式の『結び』に対  
する人々の考えは遠い昔から変わらず今に受け継がれ  
ております。



雅楽の調べと共に  
おごそかに

# 北海道神宮の結婚式

## 結婚式の流れ



### 式次第の説明

巫女が新郎新婦に式次第を説明します。

控室の中で、巫女が結婚式の進行と玉串拝礼の作法を説明します。

控室に、両家の親族が向い合せてに座り、互いに親族を紹介し合います。

### 参進

巫女に先導された新郎新婦と参列者が控室より参道（回廊）をせずと本殿へ向かいます。

列次は、新郎新婦を先頭に、仲人ご家族ご親族の近い順に参進します。両家一列ずつ座る順番で並びます。

本殿に入りましたら、8ページの図のように着席します。

### 修祓

最初に、心身のけがれを祓い清めます。

巫女の合図で一同起立。神職の祓詞奏上の後、大麻で新郎新婦と参列者をお祓いします。

参列者は全員頭を下げます。

### 幣殿昇殿

新郎新婦と仲人は幣殿へ進みます。

巫女の合図で、新郎新婦は幣殿の席に移ります。『親族盃の儀』まで幣殿にて式が進行します。



### 祝詞奏上

神様にお二人の結婚の由を奉告すると共に、末永い幸せを祈ります。

齋主が祝詞を奏上し、大神様にお二人の結婚の由を申し上げ、お二人の新家庭が末永く栄えますようにと祈りを捧げます。

この祝詞奏上の時は巫女の合図で一同起立し、頭を下げます。



### 誓詞奏上

お二人が神様に誓いの言葉を奏上します。

神前に進み、二礼をしてお二人あるいは、新郎(新婦は自分の姓名を読みます)が誓詞を読み上げます。

誓詞は、お二人が新しい家庭を築くにあつての決意表明ですから、落ちついて大きな声で読みましょう。

奏上が済みましたら、前の案(台)の上に納めます。



### 神楽

巫女が「式神楽」といふ舞を奉奏します。



### 新郎新婦玉串拝礼

新郎新婦が玉串をお供えして拝礼します。

神職が、お二人に玉串をお渡ししますので、受け取り、新郎新婦一緒に拝礼します。

玉串の根もとを御神前に向けてお供えし、祈念を込めて二拝二拍手一拝の作法で拝礼します。

拍手は先ず掌を合わせてから開いて二度打ちます。



### 仲人玉串拝礼

仲人が玉串をお供えして拝礼します。

新郎新婦の玉串拝礼と同様に拝礼します。

### 誓盃の儀

お誓いのお盃でお神酒を酌み交わし、夫婦の永遠の愛を誓います。

まず、新郎の前に、巫女が銚子と提子(11ページを参照)、三方に載った三重の金盃を進めます。

次に新郎は巫女から盃を受け取り、巫女が注いだお神酒を飲み干します。次に新婦の前に巫女が移動し同様に盃のお神酒を飲み干します。

これが三度あり、それぞれ一盃毎に三回で飲み干します。



### 参列者玉串拝礼

新郎新婦の幸せを祈り、参列者一同が拝礼します。

新郎新婦仲人の玉串拝礼に続いて、両家の代表が玉串をお供えして拝礼します。神職より玉串を受けて、ご神前に進み、玉串の根もとを御神前に向けてお供えし、二拝二拍手一拝の作法で拝礼します。

この時、参列者一同起立し、代表の方に合わせて一緒に拝礼します。



### 指輪の交換

結婚指輪を交換(贈呈)して永遠の愛を誓います。  
(希望者のみ)

新郎新婦は中央へ移動し、指輪を巫女がお二人の前へ運びます。まず新郎が新婦の左手薬指に指輪をはめ、次いで新婦が新郎の左手薬指に指輪をはめます。

※希望の場合は、当日挙式前にお申し出いただき、指輪ケースと共に巫女へお渡し下さい。



### 親族盃の儀

親族全員でお神酒を頂き親族の契りを固めます。

全員起立して、仲人(もしくは巫女の発声にて乾盃します。



### 齋主挨拶

### 退下

巫女の先導にて、参進と同様に並んで本殿を退出します。

# 結婚式次第

参進 新郎新婦・仲人夫妻・両家家族・親族の順に控室より本殿(式場)へ進みます。

着席 本殿内に入り、着席します。(8ページを参照)

修被 一同起立して頭を下げ、お祓いを受けます。

祝詞奏上 一同起立して頭を下げます。

神楽 「神楽」を奉奏します。

誓盃の儀 三三九度の盃を交わします。

指輪の交換(贈呈)を行います。(希望者のみ)

誓詞奏上 新郎新婦が御神前に進み、一礼した後に奏上致します。

玉串拝礼 玉串の根もとを御神前に向けてお供えし、「二拝・二拍手・一拝」の作法にて、新郎新婦・仲人夫妻・両家親族代表の順に拝礼致します。

親族固めの盃、仲人(もしくは巫女)の発声にて一同そろって乾盃します。

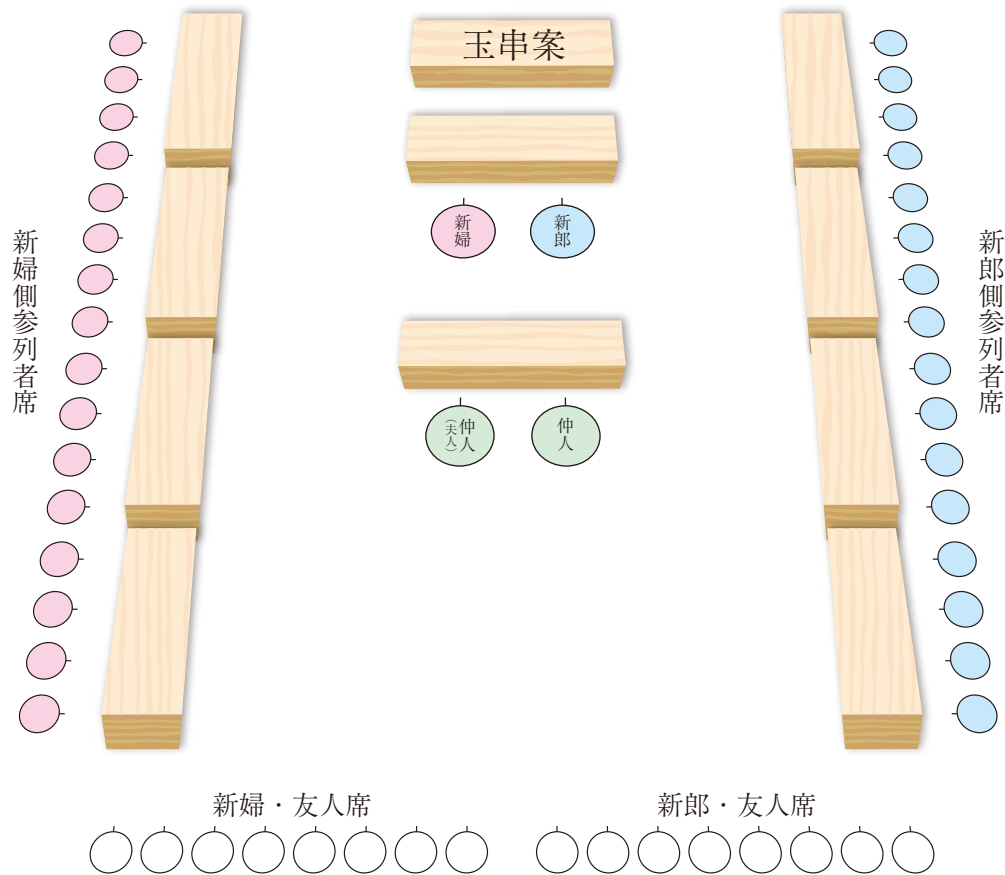
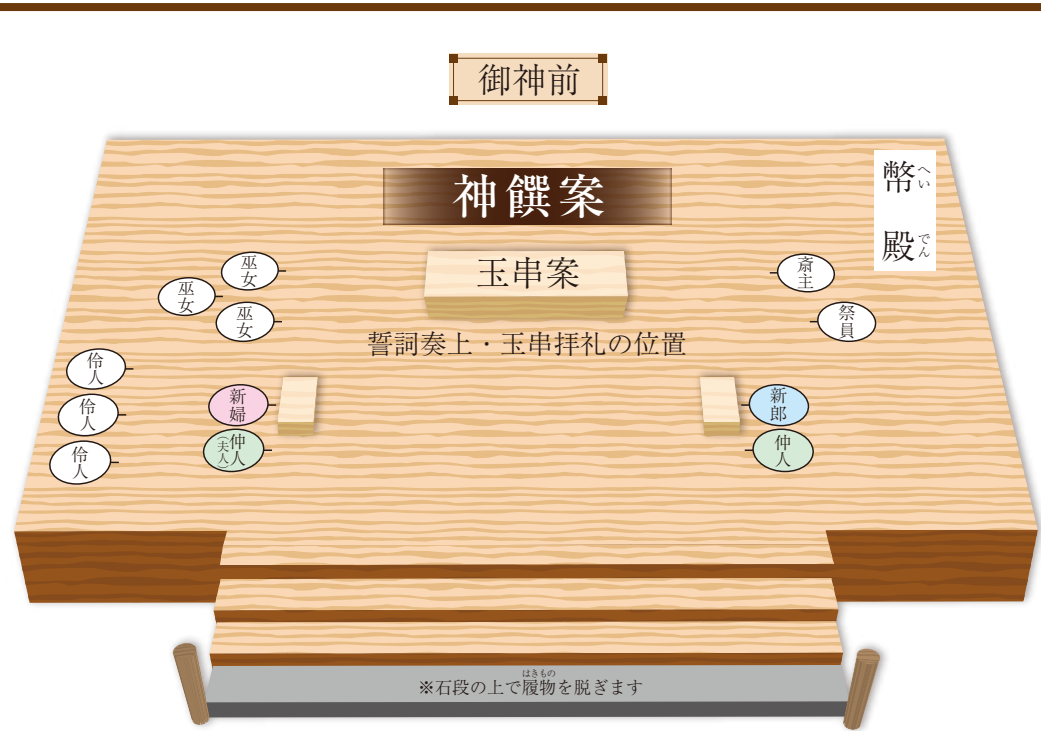
斎主挨拶 斎主よりお祝いの言葉を申し上げます。

退下 参進の時と同様に並んで本殿を退出致します。

退下



## 本殿



## 結婚式のお申し込みについて

**お申し込み** 挙式予定日の一年前よりお申し込みを受け付けます。ご来社の上  
**受 付** 「申し込み書」の提出と予約金のご納入をいただき、予約の成立と  
なります。祭典その他の都合により挙式の出来ない日時がありま  
すので、ご確認、ご了承願います。

**初 穂 料** 別紙の挙式初穂料表をご参照下さい。尚、予約金を差し引いた残額  
は当日の挙式前に社務所受付にてお納め下さい。

**挙式日時の変更** 挙式日時の変更は、挙式予定日の六ヶ月前の期間中に限り一度だけ  
認められます。六ヶ月を過ぎた場合は、取り消しの扱いとさせていただきます。

**挙式 取り消し** 挙式の取り消しの場合、事前に納入なさいました予約金は、ご奉納金  
とさせていただきますので、ご了承願います。

**参列人員** 新郎新婦、仲人夫妻以外の参列は両家それぞれ親族二十四名まで  
ご参列出来ます。友人席は別席を用意しますが、数に限りがございますので、ご相談下さい。

**集合時間** 挙式時刻の三十分前までに社務所控室にご参集願います。

**自動車の乗り入れ** 乗用車は神宮駐車場に駐車願います。貸し切りバスの場合は、社務  
所玄関前で乗り降りすることが出来ますので、その旨を駐車場係  
員にお申し出下さい。

### 控室の使用

社務所控室の使用時間は、挙式の前後それぞれ三十分間となっております。  
（使用料は挙式料に含まれます）尚、貴重品は各自にて  
管理願います。

### 着付室の使用

花嫁支度等は着付室をご利用になれます。（ご希望の方には、当  
神宮指定業者をご紹介致します。）着付室の使用は初穂料を別  
途ご納入頂きます。

### 写真・ビデオの撮影

スナップ写真・ビデオをお撮りの方は厳粛な挙式を乱さないよう心  
がけ、お撮り願います。雨天時の集合写真は、指定業者のみ祈祷殿  
にて撮影出来る場合があります。

ご希望の方には、当神宮指定業者をご紹介致します。

集合写真の撮影は、祭典、天候、その他の都合により、変更の場合が  
ありますので、ご了承願います。

### 式場の変更

結婚式は通常本殿で行いますが、当神宮の特別の事情により祈祷  
殿で行う場合がありますので、予めご了承願います。

### その他

指輪の交換をされる方は予めお申し出下さい。  
親族紹介は控室にて挙式の前にお済ませ下さい。当神宮での披露  
宴・祝賀会は出来ませんので、ご了承願います。お申し込み内容に  
変更があった場合は出来るだけ早めに祭儀部まで、ご連絡下さい。そ  
の他疑問な点、ご相談がありましたら当神宮祭儀部まで遠慮なく  
お問い合わせ下さい。



## 結婚式Q&A

■お神酒を注ぐ銚子と提子にはどんな意味があるの？

銚子は盃に酒を注ぎ、提子は銚子に酒を加える器具です。銚子に雄蝶、提子に雌蝶の飾りが付いているのは、子孫繁栄の象徴なのです。



■夫婦の契りであわす盃はなぜ二度ずつ飲むの？

昔から日本に伝わっている陰陽説では、奇数は陽数でおめでたい数とされ、天地・人を意味する三つの盃で、各三回ずつ飲んで契りを交わすことから、三献の儀ともいいます。

■神社に欠かせない玉串にはどんな意味があるの？

古来から常緑樹の榊には神が宿るとされ、これに玉や絹などの捧げ物を付け、祈りを込めて、神に献じる習慣がありました。これが今の玉串の型になったのです。

玉は自分の魂(誠の心)を意味し、これを榊の枝に載せて神様に捧げることから玉串と言いい、神事の中で最も重要な儀礼とされています。

北海道では榊がとれないため、北海道神宮では、常緑樹の「位の木」(おんこの木)の枝を玉串にしています。



■花嫁の白無垢や角隠しにはどんな意味があるの？

新郎新婦の晴着には、ハレの日に着る【神事の服】の意味で、特に花嫁の「角隠し」や「綿帽子」は神様の前に出るためのかぶり物です。

神職が冠や烏帽子をかぶって



■結婚式と披露宴にはどんな意味があるの？

神代の昔から、神事の後は必ず直会という宴を催してお互いの和を結んできました。

結婚式が、神様へ報告する神事で、直会にあたるのが披露宴です。

この披露宴はお二人の新しい

いるのと同じ意味を持ち、花嫁の一生に二度の神聖なかぶりものなのです。白無垢の着物も同じように「清浄」を意味する【神事の服】なのです。

家庭が社会的公認を求める儀式というわけです。

〇〇家と書かれているのも、結婚が新郎新婦の合意のみで成り立つものではないということを示しているといえます。

## 家庭のおまつり



「日本の文化」というと、何となく堅苦しい感じがしますが、私たちの日々の暮らしを通して自然に育まれ、伝えられていくものが文化です。

家庭のあり方、自然との触れ合い、祖先とのつながり、社会との関わり、そして、その中にある祈りの形と、感謝こそが親から子へと伝えていくべき日本の文化であると思います。

日本の文化の形の一つであるまつりは、四季折々各地の神社などでとりおこなわれる地域のまつりと共に「家庭のまつり」も我々の先祖は、大切に受け継いでまいりました。

新年には、正月の神様を迎え、家族そろってお祝いし、火や水の恩恵に感謝し、荒神様をカマド(台所)に、井戸に水神様をおまつりしてきました。神棚には神札がおまつりされ家族の心のよりどころとなっています。

あなたのご家庭でも是非、神札をおまつりして、日本人の心と伝統を伝えてゆきましょう。



北海道神宮で夫婦のご縁を結ばれる皆様へ

### 奉賛会入会のご案内

北海道神宮奉賛会は、北海道総鎮守の社に相応しい諸施設の整備、充実と教化事業等を奉賛するため昭和五十四年より全道的に会員を募り、数々の奉賛事業を実施してきました。

結婚のご縁をいただきましたことに、感謝の真心を捧げ、一層のご神縁とご加護を賜りますようご入会をおすすめいたします。

#### 会員の待遇

会員証の提示により「家内安全」ご祈祷の昇殿参拝ができます。

新年には会員のみ神札、絵馬、社報等をお送りいたします。

北海道神宮 社務所内

北海道神宮奉賛会事務局

電話 〇二一六二一〇二六



## 人生の儀礼

### ■安産祈願

母子ともに健康で無事に生まれますようにと、妊娠五ヶ月目の戌いぬの日に神社で安全を祈願します。

### ■初宮参り

一般に男児は生後三十二日目に、女児は三十三日目に、祝着を着せて神社に参拝しますが、道内では百日前後が多いようです。家族揃って幼児の成長御加護を祈願します。

### ■七五三参り

七五三参りは、古くから男女三歳で髪置かみおき、男子五歳で袴着はかまぎ、女子七歳で帯直等の儀礼として行われてきました。今日の七五三のようになったのは大正の頃からで、札幌近郊では十月十五日を中心に神社に参拝し、これまでの成長を感謝し、今後の健やかな成長をお祈りします。

### ■入学奉告

入園・入学の喜びを報告すると共に健康と学業の成就を祈願します。御祭神・明治天皇は「教育勅語」を通して国民に人の道や学問の道を説かれて、そのご神徳が仰がれております。

### ■十三参り

神様より知恵を授けて頂き、毎日健康であることを祈ります。十三歳は、宮中においては成人の儀式が行われる年であり、干支えとが一巡することなどから、子供から成人になる節目であるとされております。

### ■成人奉告

成人に達したことを祝福し、大人として責任を持ち、国や社会に貢献することを神前に奉告し、誓いを新たにします。

### ■厄祓

昔から忌み慎むべき厄難のある年を厄年やくどしと言います。厄年は、一定の年齢(男性二十五歳、四十二歳、女性十九歳、三十三歳)に達し、社会的にも重要な役割を担うようになる頃、それと共に心身の疲労・病気・災厄が起りやすく、人生の転換期として注意すべき年廻りや生涯の二つの節目として、自覚と慎みが必要な時期です。年頭に神社に詣で厄難を祓います。

### ■長寿奉賽(年祝)

長寿をお祝いする儀礼です。還暦かんれき(六十一歳)は干支えと(十干十二支)が満六十年でもとに戻るので本卦ほんけがえ還りともいいます。古稀こき(七十歳)は「人生七十古来稀まれなり」の語に基づきます。喜寿きじゆ(七十七歳)は喜を「岳」にあてたものです。傘寿さんじゆ(八十歳)は傘の略字「伞」から来ています。米寿まいじゆ(八十八歳)は米を「丩」にあてたものです。卒寿そつじゆ(九十歳)は卒の略字「卩」から来ています。白寿はくじゆ(九十九歳)は、百から「一」を取ると白の形になるからです。





結婚式など祭事のお問い合わせ

---

## 北海道神宮 祭儀部(直通)

---

電話 011(611)7810

ファックス 011(611)0263

---

受付時間 夏期 9時～17時

冬期 9時～16時

<http://www.hokkaidojingu.or.jp/>